

平成 30 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しました。低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、各地で大雨となったほか、1 日は近畿地方と関東地方で、5 日は九州南部・奄美地方で春一番が吹きました。また、8 日から 9 日にかけて、北海道では記録的な大雨と急速な雪解けの影響で、低地の浸水や河川の増水などによる被害が発生しました。旬降水量は、北・東・西日本でかなり多く、北日本の旬間日照時間はかなり少なくなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、東・西日本や沖縄・奄美を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。日本付近を寒冷前線が南下し、大陸から一時的に寒気の流れ込む日がありましたが、日本付近は南よりの暖かい空気が流れ込んだ日が多く、東日本の旬平均気温はかなり高くなりました。

下旬は、21 日から 22 日かけて、低気圧が本州南岸を東へ進み、東北地方や関東甲信地方の内陸や山沿いを中心に大雪となった所があり、西日本では旬の前半にかけて寒気が流れ込みました。その後は、移動性高気圧に覆われて全国的に晴れた日が多くなりました。特に旬の後半は、南高北低の気圧配置となって南よりの暖かい空気が流れ込み、北日本から西日本にかけては気温がかなり高く、28 日から 30 日にかけては各地で 3 月として記録的な高温となりました。旬平均気温は北・東・西日本でかなり高く、旬間日照時間は全国的にかなり多くなりました。

月平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、北日本と東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側と西日本で多かった一方、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、東・西日本と沖縄・奄美でかなり多く、北日本で多くなりました。降雪の深さ月合計は、北・東・西日本日本海側でかなり少なく、北・東・西日本太平洋側で少なくなりました。月最深積雪は、北日本日本海側で多いところが多くなりました。

【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 92%で例年値（注）より 9 ポイント高く、明後日予報は 92%で例年値より 12 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報・明後日予報ともにすべての地方で例年値を上回り、多くの地方で 10 ポイント以上高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.4 で、北海道地方以外で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.4 で、北日本を除く各地方で例年値を下回りました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の天気予報の利用にあたって】

5 月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風、局地的な大雨、降ひょうとなることがあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。